和歌の世界

和歌は日本古来の定型の歌で、日本では古くからさまざまな人の詠んだ和歌を集めた歌集が作られてきた。代表的な歌集には『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』がある。

●万葉集

成立 **奈良時代**の末頃までに成立

歌風 素朴、力強い

現存する日本最古の歌集で、二十巻、約四千五百首の歌を収める。長い期間にさまざまな人によって編纂されており、大伴家持によっておおむね現在の形にまとめられたとされる。代表的な歌人は、額田王、柿本人麻呂、山部赤人、山上憶良、大伴家持など。

天皇、貴族のほか、兵士や農民といった民衆の歌も収められている。日本語の音を漢字で表す**万葉仮名**が用いられている。

(例) 波都波流(初春)

年	時代	
	奈良	『万葉集』この頃までに成立
800		
900		『竹取物語』『古今和歌集』
	平安	
1000		『枕草子』『源氏物語』
1100		
1200	鎌倉	『新古今和歌集』

●古今和歌集

成立 **平安時代**初期

撰者 紀友則・**紀貫之**・凡河内躬恒・壬生忠岑

歌風 技巧的、理知的で、繊細、優美

天皇や上皇の命によって作られた歌集を勅撰和歌集といい、古今和歌集は、醍醐天皇の勅命で作られた、**最初の勅撰和歌集**である。二十巻、約千百首の歌を収める。代表的な歌人は、在原業平、小野小町、紀貫之など。

仮名で書かれた序文「**仮名序**」、漢文で書かれた「真名序」が収められている。古今和歌集の「仮名序」は紀貫之によって書かれたとされ、和歌の本質や※六歌仙への評、古今和歌集の編集の経緯などが記されている。

●新古今和歌集

成立 **鎌倉時代**初期

撰者 源通具・藤原有家・**藤原定家**・藤原家隆・藤原雅経・寂蓮法師

歌風 自然美や感情が、象徴的・幻想的に表現されている。体言止めなどの技巧が多用され、余情にあふれる。

後鳥羽上皇の命によって作られた、八番目の勅撰和歌集。二十巻、約千九百八十首の歌を収める。代表的な歌人は、西行法師・式子内親王など。

※六歌仙…僧正遍昭、在原業平、文屋康秀、喜撰法師、小野小町、大伴(大友)黒主。

確認テスト

(1) 次の①～③の歌集が成立したとされる時代をそれぞれ選びなさい。

① 古今和歌集　〔　　〕

② 新古今和歌集　〔　　〕

③ 万葉集　〔　　〕

ア 奈良時代　**イ** 平安時代　**ウ** 鎌倉時代

(2) 次の①・②の歌集の撰者として適当な人物をそれぞれ選びなさい。

① 古今和歌集　〔　　〕

② 新古今和歌集　〔　　〕

ア 大伴家持　**イ** 紀貫之　**ウ** 藤原定家

(3) 次の中から最初の勅撰和歌集とされるものを選びなさい。

ア 古今和歌集　**イ** 新古今和歌集　**ウ** 万葉集　〔　　〕

(4) 次の説明に当てはまる歌集を選びなさい。

幅(はば)広い階層の人々の歌が収められており、素朴で力強い歌風である。日本語の音は漢字を用いて表されている。

ア 古今和歌集　**イ** 新古今和歌集　**ウ** 万葉集　〔　　〕